

小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第25集

郷土遺跡

——長野県小諸市郷土遺跡第二次発掘調査報告書——

1996. 3

小諸市教育委員会

小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第25集

郷土遺跡

—長野県小諸市郷土遺跡第二次発掘調査報告書—

1996. 3

小諸市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成7年11月13日～12月15日までにわたって発掘調査された、長野県小諸市甲字中郷土に所在する郷土遺跡の調査報告書である。本遺跡は、平成4年に発掘調査が行われており、前回調査分を第一次、今回調査分を第二次とした。
- 2 本調査は、小諸市建設部高速交通対策課の委託を受け、小諸市教育委員会が実施した。
- 3 本調査は、星野保彦を発掘担当者とし、有識者を調査員とし、地元郷土地区の方々の御協力を得て実施した。
- 4 遺構実測図の作成は、次の者が行った。
太田史夫、小野山 清、松本甲子雄、星野保彦
- 5 遺物実測図の作成・トレースは、太田史夫・星野保彦が行ったほか、株式会社大宮測技の協力を得た。
遺構実測図のトレースは、太田史夫が行った。
- 6 土器拓本は、佐藤君代・太田史夫が行った。
- 7 遺構・遺物の写真撮影は、太田史夫・星野保彦が行った。
- 8 本書の執筆は、星野保彦が行った。
- 9 本書の編集は、太田史夫・星野保彦が行い、小澤武一がこれを校閲、監修した。
- 10 本遺跡の出土資料は、小諸市教育委員会の責任下に保管されている。

発掘調査及び報告書作成に際しては、次の方々に御指導・御配慮・御協力を賜った。ここに御芳名を記して厚く御礼申し上げる（50音順、敬称略）

白田武正、小林俊一、桜井秀雄、白沢勝彦、堤 隆、福島邦男、翠川泰弘、總田弘実
（関係機関） 株式会社大宮測技、新日本航業株式会社、有限会社堀籠重機

凡 例

- 1 各遺構の略号は、次のとおりである。
竪穴住居址——SB ビット群——SA 土坑——SK
- 2 遺構実測図の縮尺は、次のとおりである。
竪穴住居址・ビット群・土坑——1/80 炉址——1/40 遺構全体図——1/100
- 3 遺物実測図の縮尺は、次のとおりである。
土器——1/4（但し、第12図11は1/8） 石器——1/2
- 4 水系レベルの原点は、次のとおりである。
No 1——821.177m、No 2——817.808m
- 5 図版中、遺物の縮尺は、次のとおりである。
土器——約1/4 石鏃——約1/2 石斧——約1/3
- 6 図版中では、遺物番号を簡略化した。例えば、第4図1は4-1と表わす。
- 7 土層の色調は、「新版 標準土色帖」の表示に基づいて示した。

本文目次

例言	
凡例	
本文目次	
付表目次	
挿図目次	
図版目次	
I 発掘調査の概要	1
II 遺跡の環境	1
III 遺構と遺物	3
1 竪穴住居址	3
(1) 第1号住居址	3
(2) 第2号住居址	5
(3) 第3号住居址	7
(4) 第4号住居址	9
(5) 第5号住居址	11
2 ビット群	12
(1) 第1号ビット群	12
3 土坑	13
4 遺構外出上遺物	14
IV 総括	20
引用参考文献	22

付表目次

第1表 土坑一覧表	13
第2表 出土土器一覧表	23

挿図目次

第1図 調査地点と周辺遺跡	2
第2図 第1号住居址実測図	3

第3図	第1号住居址炉址実測図	4
第4図	第1号住居址出土遺物	5
第5図	第2号住居址実測図	6
第6図	第2号住居址炉址実測図	6
第7図	第2号住居址出土遺物	7
第8図	第3号住居址炉址実測図	7
第9図	第3号住居址実測図	8
第10図	第3号住居址出土遺物(A)	8
第11図	第3号住居址出土遺物(B)	8
第12図	第3号住居址出土遺物(C)	9
第13図	第4号住居址炉址実測図	9
第14図	第4・5号住居址実測図	10
第15図	第4号住居址出土遺物	11
第16図	第5号住居址炉址実測図	11
第17図	第5号住居址出土遺物	12
第18図	第1号ピット群出土遺物	12
第19図	第1号ピット群実測図	13
第20図	第1～3号土坑実測図	14
第21図	遺構外出土遺物(A)	15
第22図	遺構外出土遺物(B)	16
第23図	遺構外出土遺物(C)	17
第24図	遺構外出土遺物(D)	18
第25図	郷上遺跡遺構全体図	21

図版目次

図版1	第1号住居址 第2号住居址 第3号住居址
図版2	第4・5号住居址 第1号ピット群 第1～3号土坑
図版3	第1号住居址出土遺物
図版4	第2号・3号住居址出土遺物
図版5	第4号・5号住居址出土遺物
図版6	遺構外出土遺物
図版7	遺構外出土遺物
図版8	遺構外出土遺物

I 発掘調査の概要

1 遺跡名	郷土遺跡
2 所在地	長野県小諸市甲字中郷土4160-1、2
3 調査期間	平成7年11月13日～12月15日
4 発掘調査	上信越自動車道建設に伴う市道改良事業
5 調査担当者	星野保彦
6 調査員	小野山 清、太田史夫、松本甲子雄
7 調査面積	約1,335㎡
8 検出遺構	竪穴住居址5棟、ピット群1、土坑3基

II 遺跡の環境

郷土遺跡は、今回の調査以前に数次にわたり発掘調査が行われている。

昭和36・40年の調査結果については、第一次の発掘調査報告書の「II 遺跡の外観 2 遺跡の歴史的環境」でふれているが、簡単にまとめてみると、この2回の調査は、小諸市誌編集委員会の依頼を受け、東京教育大学の八幡一郎先生を中心に実施された。昭和36年の調査では、「縄文時代中期中頃⁽¹⁾」のものと考えられる敷石住居址1棟のほか、「炉面二ヶと敷石⁽²⁾」が検出され、出土遺物には、加曾利E式のほか、勝坂、堀之内、加曾利B式など、中期から後期にかけての土器片がある。また、後者の調査では、縄文時代中期末葉の敷石住居址1棟、平安時代以降のものと考えられる竪穴住居址1棟が検出された。その時の出土遺物には、敷石住居址からは加曾利E式の土器片が、もう1棟からは、杯3点、甕の破片などが確認されている。

平成4年に実施した第一次の調査では、縄文時代の竪穴住居址7棟、土坑49基などが検出された。住居址は、所産期別に見ると、中期中葉3棟、同期後葉2棟、後期前葉1棟、不明1棟であった。

出土遺物には、縄文土器片と石器類がある。

縄文土器は、前期前半から後期前半にかけての資料が出土している。前期の土器片では、前半の胎土に繊維を含んだ破片、また、同期後半の資料では、諸磯式の小片が確認された。中期の資料は、中葉から後葉にかけてのものが出土。中葉の資料は、焼町式、藤内式、井戸尻式の破片が主に住居址から確認されている。同期後葉の資料は、曾利式のものが大半を占めた。後期前半の資料は、ほとんどが堀之内Ⅱ式に比定される。

石器類は総数31点を数え、磨石が14点、石鏃及びその未製品が5点、他にはスクレイパー、打



- 1 松井古墳 2 郷土遺跡 3 郷上古墳群1号墳 4 郷上古墳群2号墳
- 5 北霞古墳群1号墳 6 北霞古墳群2号墳 7 北霞古墳群3号墳 8 中松井城跡
- 9 熊野裏A遺跡 10 堰下古墳群

第1図 調査地点と周辺遺跡 (1:10,000)

製石斧、磨製石斧、多孔石、石皿、石匙、石核などが出土している。

また、平成4年の調査地籍の隣接地点において、上信越高速道路建設のため、副長野県埋蔵文化財センターにより行われた発掘調査では、縄文時代前期初頭の竪穴住居址4棟、同時代中期中葉から後期初頭にかけての竪穴住居址が114棟、平安時代の竪穴住居址が2棟、古墳1基、ピット1,114基などが検出されている。

註

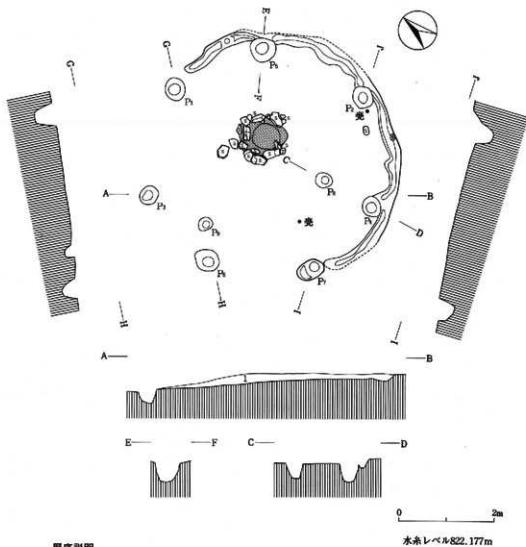
- (1) 小諸市誌編纂委員会 1974 『小諸市誌 考古篇』小諸市教育委員会
- (2) 註(1)の文献

Ⅲ 遺構と遺物

1 竪穴住居址

(1) 第1号住居址

遺構 (第2・3図、図版1)



層序説明

第1層 黒色土層 (10Y R2/1)

φ0.5~10.0cmのバリスを含み、ローム粒子を多量に含む

第2図 第1号住居址実測図

本住居址は、北側の調査区の東端部に位置する。他の遺構との重複関係はないが、後世の浸食や耕作のため、プラン西側がはっきりしなかった。平面形は、確認し得た範囲で、東西546cm、南北530cmの円形である。壁高は傾斜上方、すなわち東側の壁で約35cmを測る。床面は東から西に緩やかに傾斜し、軟弱であった。

炉址は中央部やや北寄りに位置し、炉石には河原石、安山岩等が使われていた。規模は東西85cm、南北100cm、深さ26cmを測る。覆土からは、最も厚い部分で10cmを越える明黄褐色を呈する灰の層が確認された。

ピットは9基検出された。このうち壁下で検出されたP₁~P₇の7基が、深さ30~42cmを測り、主柱穴と考えられる。

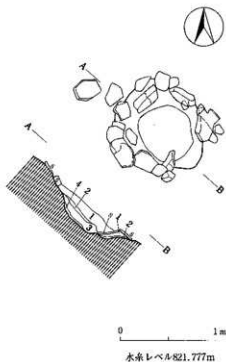
遺物 (第4図、図版3)

縄文土器と石器が出土している。1は、口縁部を全周するかたちで縦位の平行沈線が施文され、その下部に横位の隆帯が貼付されている。

そこから蛇行隆帯と、平行する隆帯がそれぞれ4単位垂下している。平行する隆帯は、ほぼ同じ位置で節目状の隆帯をもち腕骨文に類似している。蛇行隆帯と、隆帯の間は、縦位の沈線が施されている。2は垂下する3本の平行する隆帯と1本の隆帯が各4単位ずつ貼付され、隆帯間には、縦位と横位の沈線が施文されている。3本の平行する隆帯には、ほぼ同じ胴部の最も張った位置、若しくはそのやや上に、楕円形と渦巻き状の隆帯がアクセントのかたちで施されている。3・5・8・13には、渦巻き状隆帯が、10・15には蛇行隆帯が施文されている。18は、焼町式の深鉢型土器の破片、7は綾杉状沈線が施文された曾利式の資料である。

石器は、図示した安山岩製の石鏃が出土している。また、図示し得なかったが、黒曜石の小剥離片が5点確認された。

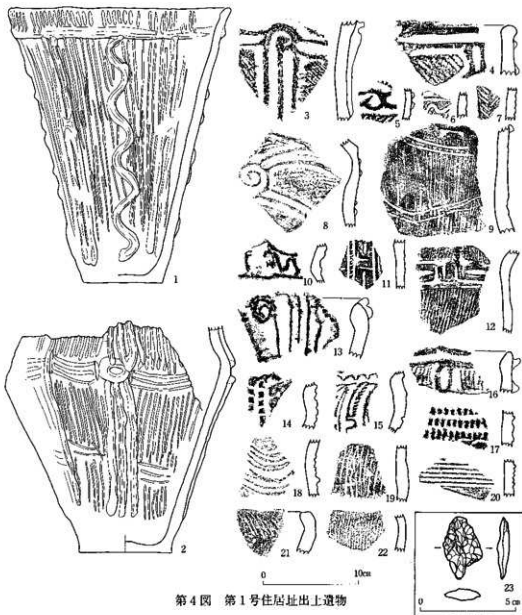
本住居址からは、縄文時代中期中葉から後葉にかけての資料が得られたが、その出土状況から所産期は中期後葉に比定される。



層序説明

- 第1層 黒褐色土層 (10Y R 2/2) ϕ 0.5~3.0cmの
パミス、ローム粒子を含む。締まっている
- 第2層 暗褐色土層 (10Y R 3/3) 灰を含む
- 第3層 明黄褐色土層 (10Y R 6/8) 灰層
- 第4層 褐色土層 (7.5Y R 6/8) 地山が焼けたもの

第3図 第1号住居址炉址実測図



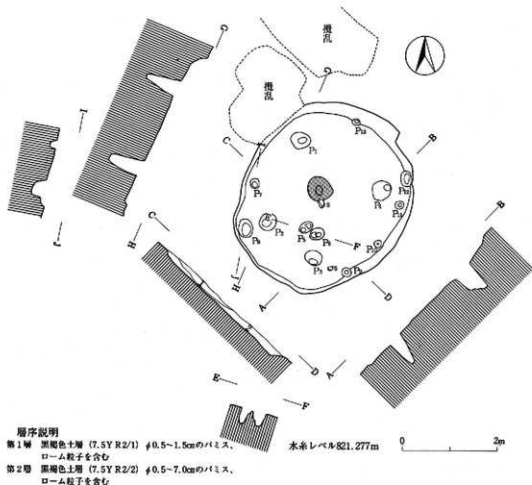
第4図 第1号住居址出土遺物

(2) 第2号住居址

遺構 (第5・6図、図版1)

本住居址は、北側の調査区の中央部東端において検出された。他の遺構との重複関係はないが、北西部が一部、比較的最近掘られたと思われる土坑に切られていた。平面形は、確認し得た範囲で、東西352cm、南北410cmの南長にやや長い楕円形を呈する。壁高は傾斜上方の北側で約30cmを測るが、南側では5cmを測る程度であった。床面は概ね平坦で、堅緻であった。

炉址は中央部やや西寄りで検出された。炉の縁部で安山岩が出土したが、炉石として使用され



第5図 第2号住居址実測図

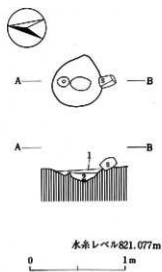
たものかどうかは判然としなかった。覆土からは、層厚10cmを測るにふい赤褐色を呈する灰層が確認された。

ビットは総計13基が検出された。このうちP₁~P₄の4基が、深さ60~72cmを測り、主柱穴と考えられる。

遺物 (第7図、図版4)

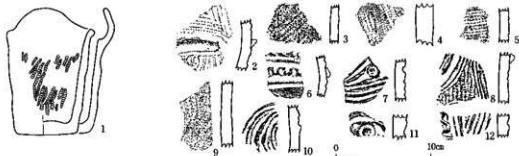
本住居跡からは、縄文土器と石器が出土している。1は、口縁に突起をもつ深鉢で胎土に多量の金雲母を含む。2・7・10・11は、焼町式の深鉢の破片である。5は、胎土に繊維を含む前期の深鉢型土器の破片で、混入したものと考えられる。

石器は、図示しなかったが、磨石に用いたと考えられる資料が1点出土している。



層序説明
 第1層 暗赤褐色土層 (5Y R3/2) 灰を含む
 第2層 にぶ赤褐色土層 (5Y R4/4) 灰層

第6図 第2号住居址炉址実測図



第7図 第2号住居址出土遺物

本住居址の所産期は、出土遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。

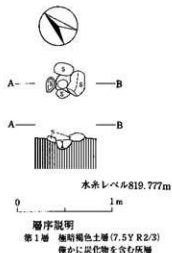
(3) 第3号住居址

遺構 (第8・9図、図版1)

本住居址は、北側の調査区の南端部において検出された。他の遺構との重複関係はないが、傾斜下方、南側の壁の上端の一部がはっきりしなかった。平面形は、東西366cm、南北は470cm前後の、南北に長い楕円形を呈する。壁高は傾斜上方の北東部で55cmを測るが、西側では14cmと低い。床面は平坦だったが、軟弱であった。

炉址は、中央部やや北寄りで見出された。河原石を用いた石囲い炉で、残存部で東西37cm、南北40cmの規模の小さなものであった。覆土からは、少量の灰と炭化物が確認された。

ピットは8基検出された。このうちP₁~P₄の4基が、深さ35~40cmを測り、支柱穴と考えられる。また、P₇・P₈の2基は、深さ22cm、26cmを測り、検出された地点から、出入口に因むものと思われる。



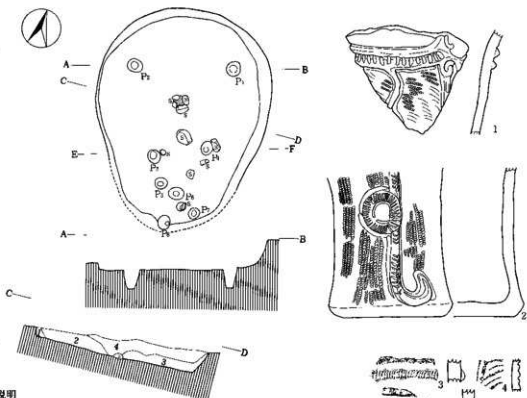
第8図 第3号住居址炉址実測図

遺物 (第10~12図、図版4)

縄文土器片と石器が出土している。縄文土器は、中期中葉焼町式の資料が大半を占めた。11は、口径29.7cmを測る深鉢で、器面に眼鏡状突起、曲隆帯、刺突文などが稠密に施文されている。2は、地文に縄文が施され、刻みのある円形隆帯と「し」の字状の隆帯が貼付されている。

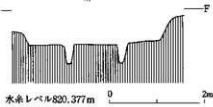
石器は、図示しなかったが、安山岩製の磨石が2点出土している。

本住居址の所産期は、縄文時代中期中葉に比定される。



層序説明

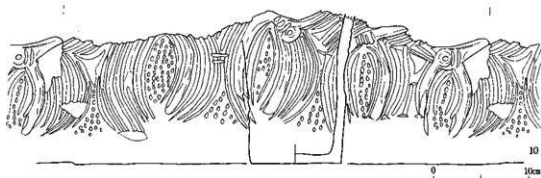
- 第1層 黒色土層(10YR1.7/1)
 パミスをほとんど含まない
- 第2層 黒褐色土層(10YR2/2)
 φ0.5-8.0cmのパミス、
 ローム粒子含む
- 第3層 黒褐色土層(5YR2/2)
 φ0.5-8.0cmのパミス、
 ローム粒子含む
- 第4層 黒褐色土層(7.5YR2/2)
 φ0.5-15cmのパミス、
 ローム粒子含む



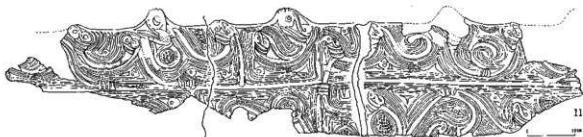
第9図 第3号住居址実測図



第10図 第3号住居跡出土遺物(A)



第11図 第3号住居跡出土遺物(B)



第12図 第3号住居跡出土遺物 (C)

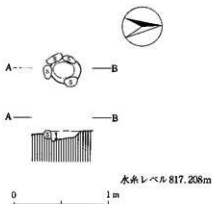
(4) 第4号住居址

遺構 (第13・14図、図版2)

本住居址は、南側の調査区の西端で検出された。第5号住居址と重複関係を有し、同住居址を切っている。緩斜面に位置するため、後世の浸食等を受け、南側では壁が検出されなかったが、平面プランは、円形若しくは楕円形を呈するものと考えられる。確認し得た範囲では、東西410cm、南北265cmを測る。壁高は傾斜上方、北西部で約50cmを測るが、南側は不明である。床面は、軟弱で、残存部から推して、中央に向かい緩やかに傾斜していたものと思われる。

炉址は、中央の北寄りと考えられるところで検出された。河原石を用いた石囲い炉で、東西31cm、南北39cmと規模の小さいものであった。覆土からは炭化物が僅かに確認された。

ピットは5基が検出され、P₁~P₄の4基が、深さ40~52cmを測り、支柱穴と考えられる。



層序説明

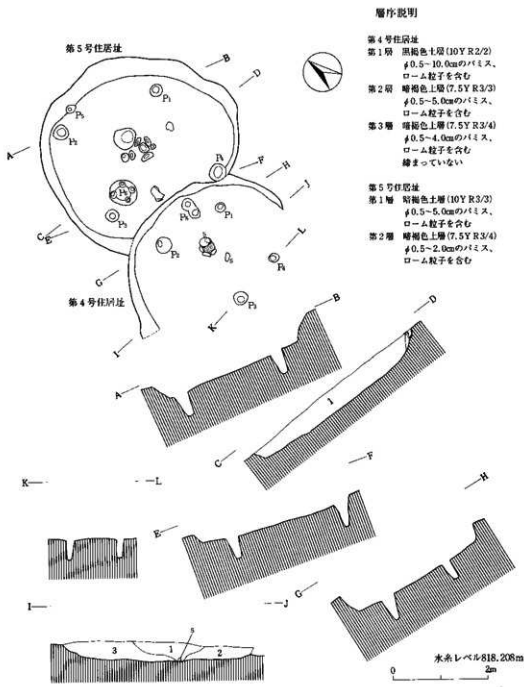
第1層 黒褐色土層 (GY R2/2) 4.0.5cm前後の
パリス、ローム粒子、炭化物を含む

第13図 第4号住居址炉址実測図

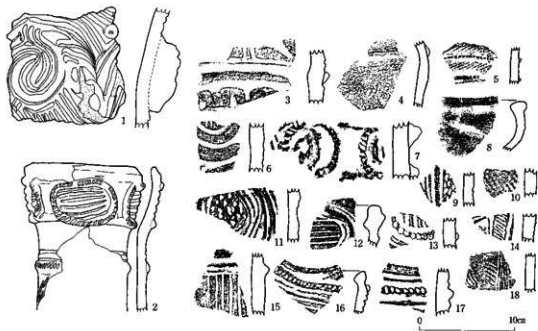
遺物 (第15図、図版5)

縄文時代中期中葉を中心とした土器片が出土している。1・9・11は、焼町土器である。2・7・13は、刻みのある環状隆帯内に平行沈線や刺突文が見られる。8は、器面内外に赤色の塗料が残る浅鉢の破片である。また5は、地文に縄文が施文され、隆帯を貼付した後に爪形文が付された前期後半の資料で混入したものと考えられる。石器は、出土しなかった。

本住居址の所産期は、縄文時代中期中葉に比定される。



第14図 第4号(下)・第5号(上)住居址実測図



第15図 第4号住居址出土遺物

(5) 第5号住居址

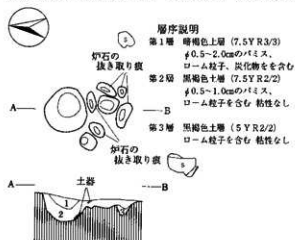
遺構 (第16・17図、図版2)

本住居址は、南側の調査区の西端で検出された。第4号住居址と重複関係を有し、同住居址に切られている。平面プランは、残存部から推して、東西にやや長い楕円形を呈するものと考えられる。確認し得た範囲では、東西416cm、南北349cmを測る。壁高は、傾斜上方、北側で62cmを測るが、南東の第4号住居址に切られている

辺りでは20cm程度であった。床面はほぼ平坦であったが、締まっていたはなかった。

炉址は、中央部や北寄りと考えられる地点で確認された。炉石の抜き取り痕と思われる小ピットが5基検出されていることから、石囲い炉であったと推測される。

ピットは、炉址部を除き、6基が検出された。このうちP₁~P₄の4基が、38~53cmを測り、支柱穴と考えられる。



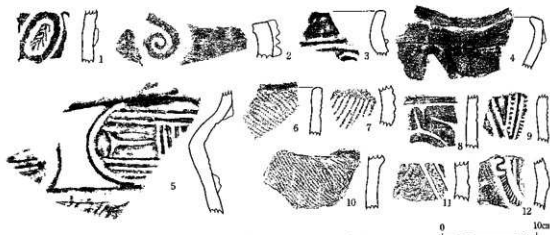
第16図 第5号住居址炉址実測図

遺物 (第17図、図版5)

本住居址からも、縄文土器片のみの出土で、石器は確認されなかった。1は、深鉢の胴部の破片で、細長

い葉のかたちをした隆帯に羽状の刻みが付され、その周囲に楕円形の沈線が施文されている。5は、横位の平行する隆帯、及び楕円形の隆帯を区画文とし、楕円形の内側は、三叉文、縦位と横位の平行沈線が施文されている。また4は、口縁と平行するかたちで薄く隆帯が貼付された浅鉢である。図示し得なかつたが、浅鉢の破片は、このほかに2個体分出上している。ともに器面の内外に赤色塗彩が施され、1点は蛇行隆帯が施文されている。

本住居址は、出土土器より縄文時代中期中葉に比定される。



第17図 第5号住居址出土遺物

2 ピット群

(1) 第1号ピット群

遺構（第19図、図版2）

北側の調査区の北西部で検出された。5基のピットよりなる。平面形は、不整楕円形、隅丸長方形を呈し、深さは19～60cmを測る。5基のうちP₁とP₅は、深さに若干差があるが、類似したかたちである。

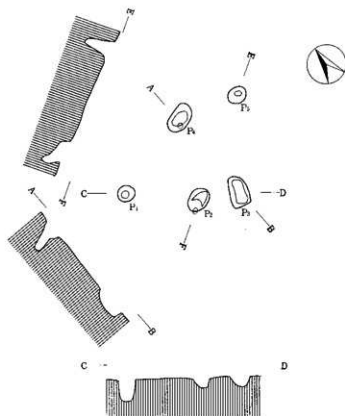
遺物（第18図、図版8）

第18図1はP₁から、2はP₅から出土している。1は、沈線と縄文が施文された深鉢の口縁部の破片で、縄文時代中期後葉の資料である。2は、内外面とも丁寧に仕上げられ、赤色塗彩が残る中期中葉の浅鉢の破片と考えられる。

本遺構の所産期は、遺物が少なく、また、混在しているため定かでない。



第18図 ピット群出土遺物



層序説明
 灰土、黒陶色土層(10YR3/1) ϕ 0.5-3.0cm
 のパリス、ローム粒を含む
 0 2m
 水糸レベル821.677m

第19図 第1号ピット群実測図

それぞれの所産期については、出土遺物が皆無、若しくは僅かのため、特定できなかった。

3 土坑

遺構(第20図、図版2)

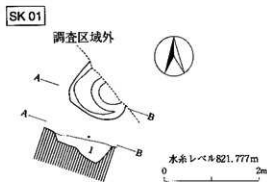
今回の調査では、3基の土坑が検出された。いずれも北側の調査区で確認された。重複関係をもつものはなかったが、第1号土坑については、調査区域外にかかるかたちで検出されたため、平面プランは不明である。第3号土坑からは、 ϕ 15.0~30.0cmを測る軽石が多く出土した。また、同土坑の底面は、比較的平らで締まっていた。

遺物

図示しなかったが、縄文時代中期中葉の浅鉢の口縁部の破片が1点、第2号土坑より出土している。鮮やかな明赤褐色を呈する塗料が僅かに残る。

第1表 土坑一覧表

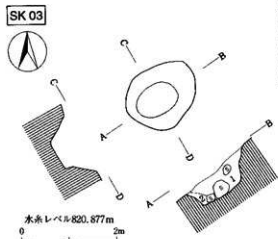
土坑No	平面形	規模(cm)			長軸方位	出土遺物	備考
		東西	南北	深さ			
1	不明	103	113	15~42	N-22°-W		
2	不整形	185	187	3~20	N-37°-W	縄文土器片1	
3	不整形	160	133	41~56	N-60°-E		



層序説明
 第1層 黒色土層 (10Y R2/1) ϕ 0.5~8.0cmの
 パミスを多量に含み、ローム粒子を含む



層序説明
 第1層 黒色土層 (7.5Y R2/1) ϕ 0.5~8.0cmのパミス、
 ローム粒子を含む
 第2層 黒褐色土層 (7.5Y R2/2) ϕ 0.5~3.0cmのパミス、
 ローム粒子を含む



層序説明
 第1層 黒褐色土層 (10Y R2/2) ϕ 0.5~30.0cmのパミス、
 ローム粒子を含む
 第2層 褐色土層 (10Y R4/4) ϕ 0.5~1.0cmのパミス、
 ローム粒子を含む

第20図 第1号~第3号土坑実測図

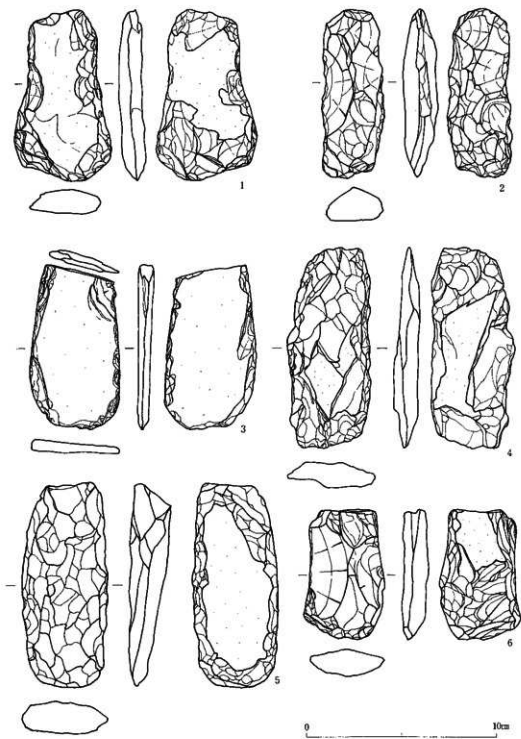
4 遺構外出土遺物

遺物 (第21~24図、図版6・7・8)

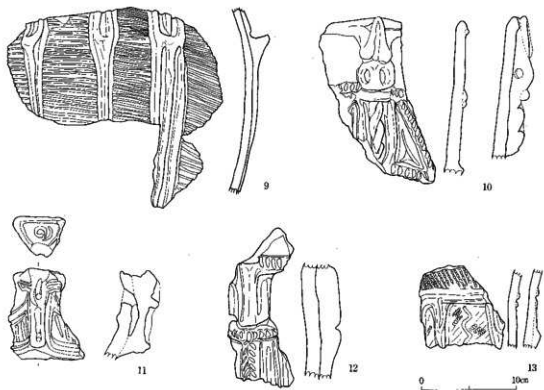
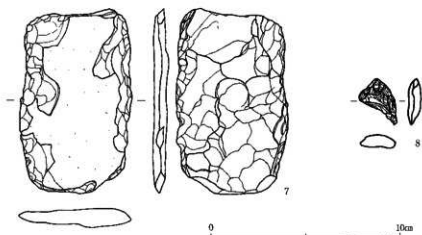
遺構外からは、縄文土器片、石器が出土している。

土器は、図化したものが5点、拓影を載せたものが90点である。時期的に大別すると、前期が3点、中期が89点、後期が3点である。代表的なものを掲載したわけであるが、検出された住居址の所産期がすべて中期であったことと照らし合わせると、遺構外で出土した土器の割合も、今回の調査区の周辺が中期を中心とした集落跡であったことを、裏付けているといえよう。

前期の資料 (第23図35・45、第24図74) は、いずれも深鉢の破片で、前半の資料である。74は



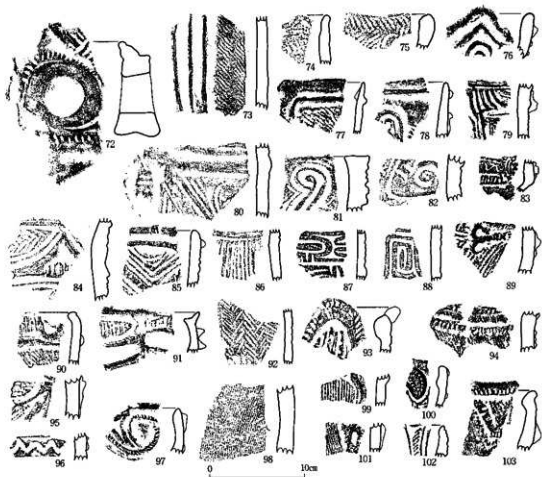
第21圖 遺構外出土遺物 (A)



第22図 遺構外出土遺物 (B)



第23图 遺構外出土遺物 (C)



第24図 遺構外出土遺物 (D)

波状を呈する口縁部の破片、他は胴部の破片である。

中期の資料は、中葉から後葉の土器が出土している。図示したものでは、中葉が19点、後葉が50点、残る19点は厳密な時期区分を行えなかったが、中葉後半から後葉の初めにかけての資料と考えられる。

中葉の資料では、10が深鉢の口縁部から胴部の破片で、口縁部にW字状の隆帯が貼付され、その下部に環状突起、捻り紐状の隆帯が続く。また、横位と斜位に刻みのある隆帯が区画文として配され、その内側には区画文に沿ったかたちの沈線と三叉文が施文されている。12は、連続する短い沈線、羽状の刻みが施された隆帯による区画文、縦位の平行沈線などが施文されている。細部は異なるが、10・12共に井戸尻式期に比定される資料である。また、曲隆帯に刻み、円弧状の平行沈線が施文された31は、焼町式の資料で、23もほぼ同時期の破片と考えられる。

中期後葉では、曾利式、加曾利E式、唐草文系の土器片が出土している、9は、曾利II式期の

唐草文系の深鉢で隆帯が区画文として貼付され、その間に横位平行沈線が密に施文されている。隆帯は、腕骨文と類似しているが、Y字状、若しくは田状に貼付されており、通常のものとは若干異なる。また、接合し得た範囲では、渦巻き状の施文はされていない。14・73も同時期の資料と考えられるが、73は地文に縄文が付されている。11は、深鉢の口縁部の突起で、器面内側の縁の下約1.5cmのところから、直径1.5cm前後の孔が穿たれている。内から外へむけて開けたもので、外面では直径0.6cm程である。13は、曾利Ⅱ式期の深鉢と考えられる。図示した破片は、刻みのない隆帯の上部に斜行平行沈線が施文され、その線上にほぼ等間隔で刺突が行われている。下部は地文に縄文が付され、蛇行沈線が施文されている。15は、曾利Ⅱ～Ⅲ式期の深鉢片で、H字形の隆帯と綾杉状沈線が付されている。30は、曾利Ⅰ式期の隆帯を貼付し、籠目文が施文された資料である。このほか曾利式と考えられる土器片には、18・54・65・92がある。

一方、加曾利E式の資料には、19・26・34・49・50・55・60・78がある。19は、加曾利EⅡ式の深鉢の破片で横位の渦巻き状隆帯と無文の隆帯が口縁部の下に回らされている。26は、地文に撫糸文が施文され、2条の隆帯がやはり渦巻き状に付されている。60は、3列の刺突が行われているが、上の2列は器面に棒状工具を立てるかたちで、最下列は器面に沿うかたちで行っている。このため最下列は、一見刺突とするよりは、刻みの印象を受ける。34・49・50・55は、同Ⅲ式期の資料で、隆帯若しくは沈線による区画文内に、縄文が施文されている。また、17・22・32・33・84は、唐草文系の施文が見られる。

後期の資料は、図示したものでは4点ある。29・48が堀之内Ⅰ式、30・31が堀之内Ⅱ式のいずれも深鉢の破片である。

石器は8点を図示した。1が粘板岩製の、2・5・6が安山岩製の、3・4・7が頁岩製のいずれも打製石斧である。8は、黒曜石製の石鏃の破片である。また、図示しなかったが、蛇紋岩製の磨製石斧の破片が2点出土している。

V 総 括

今回の調査で検出された遺構・遺物については、すでに各章で述べたが、要点を簡単にまとめてみたい。

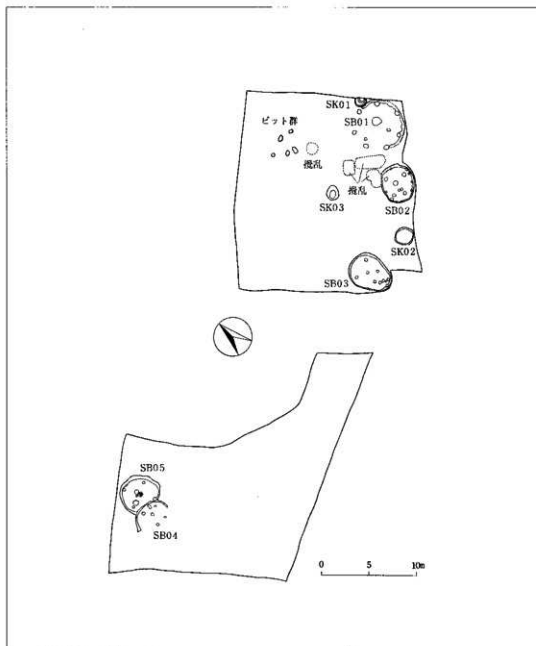
検出された遺構には、縄文時代中期中葉から後葉の竪穴住居址、ピット群、土坑がある。

また、出土した遺物には、縄文時代前期前半から後期前半の土器片、石器がある。

5棟の住居址の所産期は、第1号住居址が中期中葉、残る4棟は中期中葉に比定される。前回の調査の結果、及び附長野泉埋蔵文化財センターの調査結果を冒頭Ⅱ、遺跡の環境に記したが、それから調査区周辺は、縄文時代中期中葉から後期初頭が、最も集落が栄えた時期と考えられる。

ピット群、土坑については、出土遺物が皆無、若しくは僅かであったため、時期を特定することはできなかった。

次に出土遺物についてふれる。まず七器であるが、胎土に繊維を含んだ縄文時代前期前半の破片から後期前半堀之内Ⅱ式に至る間の資料が、整理用コンテナで7箱分出土した。前期前半の資料は、関山式に比定される破片で、遺構外からの出土が大半を占め、住居址からも確認されたが、覆土上部からの出土に限られた。前期後半の資料は、第4号住居址より節結状隆線が施された破片が1点出土している。中期の資料は、中葉から後葉の土器が出土している。中葉の資料では、焼町式・藤内式・井戸尻式のもの確認されている。焼町式の深鉢は、第3号住居址から2個体分出土したほか、第2・4号住居址からも破片が出土している。藤内式の資料は、第4号住居址(第15図7・12・13・16・17)、第5号住居址(第17図5・9・12)から出土したほか、遺構外(第23図16、第24図103)からも得られた。井戸尻式の資料は、第4号住居址(第15図2)の深鉢のほか、遺構外で検出されたかなり大型の深鉢の破片(第22図10・12)などがある。中期後葉の資料は、曾利式・加曾利E式・唐草文系の土器片が出土している。曾利I式の資料には、遺構外出土の深鉢片(第23図30)がある。また、Ⅱ～Ⅲ式に比定される資料には、第1号住居址、遺構外から出土した破片がある。腕骨文に類似したY字状隆帯、蛇行沈線、斜行平行沈線上に刺突が施文された第22図13も、この時期の資料と考えられる。加曾利E式の破片は、遺構外から多く出土している。唐草文系の資料は、第1号住居址及び遺構外から出土している。第1号住居址の図示した2点(第4図1・2)は、曾利Ⅱ式に平行する時期の深鉢と考えられる。1は、垂下する腕骨文に類似した隆帯と蛇行隆帯が区画文として貼付され、その間に縦位の沈線が施文されている。また2は、腕骨文に類似した隆帯に替わり、垂下する3本の隆帯と1本の隆帯が区画文となっている。3本の隆帯は、節状の隆帯ではなく、楕円形若しくは渦巻き状の隆帯で結ばれている。遺構外から出土した第22図9、第23図14も同時期に比定される資料であろう。後期前半の土器は、遺構外から堀之内Ⅰ、Ⅱ式期の資料が数点出土したのみである。同期後半以降の土器片は、前回



第25図 郷土Ⅱ遺跡遺構全体図

の調査同様確認されなかった。

石器は、石鏃2点、打製石斧7点、磨製石斧2点、磨石3点が出土した。

以上、今回の調査結果をまとめた。住居址の所産期は、すべてが前回大半を占めた縄文時代中期中葉から後葉に比定されるが、出土遺物では前回確認されなかった資料も出土している。具体的には、腕骨文に類似した隆帯が施された深鉢片、刺突が施文された加曽利E式の破片（第23図60）など。今回と前回の調査区の間が、100mと離れていないことを考えてみると本遺跡のもつ多様性がうかがえる。

十分な考察が出来ず、とりとめのない内容となってしまったが、今後の課題としたい。

最後に、調査、報告書作成にご協力頂いた方々、小諸市建設部高速交通対策課をはじめとする関係各位、御教示を頂いた先生方に厚く御礼を申し上げ、総括としたい。

引用参考文献

- 岡村秀雄ほか 1991 「第3章 調査 第2節 吹付遺跡」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書2——佐久市内その2——本文編』日本道路公団東京第2建設局 長野県教育委員会 館長野県埋蔵文化財センター
- 塩入秀敏ほか 1985 「戌立遺跡——範囲確認調査報告書——」 東部町教育委員会
- 千曲川水系古代文化研究所編 1980 『編年——中部高地における型式——旧石器・縄文・弥生』信毎書籍出版センター
- 野村一寿ほか 1988 「Ⅱ 時代と編年 2 縄文土器」『長野県史考古資料編 全1巻 (4) 遺構・遺物』長野県史刊行会
- 林 幸彦ほか 1983 『中村』佐久市教育委員会
- 福島邦男 1989 『平石遺跡——緊急発掘調査報告書——』望月町教育委員会
- 福島邦男 1991 『平石遺跡——第2次緊急発掘調査報告書——』望月町教育委員会

第2表 出土土器一覽表

第1号住居址(第4図)

器同 番号	器種	部位	法量	文 様	測 定 (内面)	色		施 焼	備考
						内 面	外 面		
1	深鉢	口縁部 底 部	22.8 25.0 8.2	横位、縦位、垂下する蛇行隆 帯 縦位平行沈線	ヨコナテ	白黒金 灰土 赤土 母 母	灰黄褐色 10Y R4/2	にぶい橙色 7.5Y R6/4	良
2	深鉢	胴 部 底 部	— 9.7	縦位隆帯 平行沈線 内文	ヨコナテ	白黒金 灰土 赤土 母 母	灰褐色 7.5Y R4/2	にぶい黄褐色 10Y R6/3	良
3	深鉢	胴 部	—	横位、縦位、渦巻き状隆帯 縄文	ヨコナテ	白黒金 灰土 赤土 母 母	にぶい赤褐色 5Y R4/3	暗赤褐色 5Y R3/6	良
4	深鉢	口縁部	—	隆帯、沈線による区画文 縄文	ヨコミガキ	白黒金 灰土 赤土 母 母	にぶい褐色 7.5Y R5/3	明赤褐色 5Y R5/6	良
5	深鉢	胴 部	—	渦巻き状隆帯 斜行平行沈線	ヨコナテ	黒金 赤土 白 赤土 母 母	灰黄褐色 10Y R4/2	にぶい赤褐色 5Y R5/4	普
6	深鉢	胴 部	—	横位、波状沈線	ヨコナテ	白黒金 灰土 赤土 母 母	黒褐色 10Y R3/2	赤褐色 2.5Y R4/6	良
7	深鉢	胴 部	—	綾杉状沈線	ヨコナテ	黒金 赤土 白 赤土 母 母	黒褐色 10Y R2/2	赤褐色 2.5Y R4/6	普
8	深鉢	胴 部	—	渦巻き状、曲隆帯 縄文	ヨコミガキ	白黒金 灰土 赤土 母 母	にぶい褐色 7.5Y R6/4	橙色 5Y R6/6	良
9	深鉢	胴 部	—	横位隆帯 斜行沈線	ヨコナテ	黒金 赤土 白 赤土 母 母	暗赤褐色 5Y R3/6	黒色 10Y R2/1	良
10	深鉢	胴 部	—	横位、蛇行隆帯	ヨコナテ	白黒金 灰土 赤土 母 母	褐灰色 7.5Y R4/1	にぶい赤褐色 2.5Y R4/4	良
11	深鉢	胴 部	—	刻み 沈線	ヨコナテ	白黒金 灰土 赤土 母 母	にぶい赤褐色 5Y R4/3	褐灰色 5Y R4/1	良
12	深鉢	胴 部	—	刻みのある隆帯 沈線による二又文 縄文	ヨコナテ	白黒金 灰土 赤土 母 母	黒色 7.5Y R1.7/1	にぶい赤褐色 2.5Y R4/3	良
13	深鉢	口縁部	—	渦巻き状、垂下する隆帯	ヨコミガキ	白黒金 灰土 赤土 母 母	にぶい黄褐色 10Y R4/3	にぶい赤褐色 5Y R4/4	良
14	深鉢	胴 部	—	刻みのある隆帯	ヨコミガキ	白黒金 灰土 赤土 母 母	灰褐色 7.5Y R4/2	暗赤褐色 5Y R3/3	良
15	深鉢	胴 部	—	横位蛇行隆帯 刻みのある円弧状隆帯 円弧状沈線	ヨコミガキ	白黒金 灰土 赤土 母 母	黒褐色 10Y R3/1	にぶい赤褐色 5Y R5/3	良
16	深鉢	口縁部	—	隆帯による区画文 縦位沈線	ヨコミガキ	白黒金 灰土 赤土 母 母	にぶい赤褐色 5Y R4/3	暗赤褐色 2.5Y R3/4	良
17	深鉢	胴 部	—	刻みのある隆帯 沈線	ヨコナテ	白黒金 灰土 赤土 母 母	にぶい赤褐色 5Y R5/4	暗赤褐色 2.5Y R3/4	良
18	深鉢	胴 部	—	円弧状隆帯 沈線	ヨコナテ	白黒金 灰土 赤土 母 母	にぶい黄褐色 10Y R4/3	暗赤褐色 5Y R3/4	良
19	深鉢	胴 部	—	捺糸文	ヨコナテ	白黒金 灰土 赤土 母 母	褐色 7.5Y R4/3	にぶい赤褐色 5Y R4/4	良
20	深鉢	胴 部	—	横位平行沈線	ヨコナテ	白黒金 灰土 赤土 母 母	黒褐色 10Y R3/1	にぶい黄褐色 10Y R5/3	良
21	深鉢	口縁部	—	斜行平行沈線	ヨコミガキ	白黒金 灰土 赤土 母 母	黒褐色 5Y R2/1	にぶい赤褐色 5Y R4/3	普
22	深鉢	胴 部	—	捺糸文	ヨコナテ	黒 赤 母	灰黄褐色 10Y R4/2	にぶい褐色 7.5Y R5/3	良

第2号住居址 (第7回)

標頭 番号	器種	部位	法量	文	様	調整 (内面)	色			焼成	備考
							内	面	外 面		
1	深鉢	口縁部 / 底 部	9.2 13.6 6.0	口縁に突起 縄文		ヨコナテ	白色粒子 金 雲	灰褐色 5Y R4/2	にぶい赤褐色 5Y R4/3	良	
2	深鉢	胴 部	—	円弧状隆帯 平行沈線		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	にぶい赤褐色 5Y R4/4	赤褐色 2.5Y R4/6	良	
3	深鉢	胴 部	—	縄文		不 明	白色粒子 黒 雲	にぶい赤褐色 2.5Y R4/4	にぶい赤褐色 2.5Y R5/4	普	
4	深鉢	胴 部	—	縄文		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	にぶい赤褐色 5Y R4/3	暗赤褐色 2.5Y R3/4	良	
5	深鉢	胴 部	—	縄文		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	黒褐色 10Y R3/1	明赤褐色 5Y R5/6	良	
6	深鉢	胴 部	—	平行沈線 蛇行隆帯		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	灰黄褐色 2.0Y R5/2	にぶい赤褐色 2.5Y R5/4	良	
7	深鉢	胴 部	—	平行沈線 内文		ヨコナテ	黒 雲 母	黒褐色 10Y R2/3	暗赤褐色 5Y R3/4	良	
8	深鉢	胴 部	—	円弧状隆帯 平行沈線		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	灰黄褐色 10Y R4/2	褐色 7.5Y R4/3	良	
9	深鉢	胴 部	—	縄文		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	にぶい赤褐色 5Y R4/3	灰褐色 7.5Y R4/2	良	
10	深鉢	胴 部	—	曲隆帯 沈線		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	褐灰色 7.5Y R4/1	暗赤褐色 5Y R2/4	良	
11	深鉢	胴 部	—	沈線 内文		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	灰褐色 7.5Y R4/2	にぶい赤褐色 2.5Y R4/3	良	
12	深鉢	胴 部	—	縦位、斜行平行沈線		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	褐色 7.5Y R4/3	にぶい赤褐色 2.5Y R4/4	良	

第3号住居址 (第10~12回)

1	深鉢	胴 部	—	横位隆帯内に沈線 渦巻き文 縄文		ナ テ	白色粒子 黒 雲	にぶい赤褐色 5Y R4/3	褐色 7.5Y R4/3	良	
2	深鉢	胴 部 / 底 部	10.4	円形、垂下する「し」の字状隆 帯に削み 縄文		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	暗赤褐色 2.5Y R3/6	黒褐色 7.5Y R2/2	良	
3	深鉢	胴 部	—	連続爪形文のある隆帯		ヨコミガキ	白色粒子 黒 雲	赤褐色 2.5Y R4/6	にぶい褐色 7.5Y R5/3	良	
4	深鉢	胴 部	—	沈線		ヨコナテ	白色粒子 白 雲	褐色 2.5Y R6/8	褐色 2.5Y R6/6	普	
5	深鉢	胴 部	—	円弧状沈線 内文		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	にぶい褐色 7.5Y R5/4	暗赤褐色 5Y R3/6	良	
6	深鉢	胴 部	—	刺突のある隆帯 縦位平行沈線		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	にぶい黄褐色 10Y R6/4	にぶい褐色 7.5Y R5/3	良	
7	深鉢	胴 部	—	横位、縦位平行沈線		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	灰黄褐色 10Y R4/2	にぶい赤褐色 5Y R5/4	普	
8	深鉢	胴 部	—	削みのある隆帯 内文 沈線		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	にぶい褐色 7.5Y R6/3	褐灰色 10Y R4/1	普	
9	深鉢	胴 部	—	縄文		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	にぶい褐色 7.5Y R5/3	にぶい赤褐色 5Y R5/3	良	
10	深鉢	胴 部 / 底 部	9.4	環状突起 曲隆帯 刺突		ヨコナテ	白色粒子 黒 雲	にぶい赤褐色 5Y R4/4	にぶい赤褐色 5Y R5/3	普	

種号	器種	部位	法量	文様	調整 (内面)	胎土		色調		焼成	備考
						内	外	内	外		
11	深鉢	口縁部 胴部	29.7 —	縦筋状突起 曲隆帯 刺突	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	灰褐色 5Y R5/2	黒褐色 7.5Y R3/1	—	良	

第4号住居址 (第15図)

1	深鉢	胴部	—	曲隆帯 縦筋状突起 沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 7.5Y R5/4	にぶい赤褐色 5Y R5/3	—	良	
2	深鉢	口縁部 胴部	10.8 —	刻みのある楕円形隆帯 平行沈線 縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 5Y R6/4	黒褐色 7.5Y R3/1	—	普	
3	深鉢	胴部	—	横位隆帯 横位平行沈線 三叉文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 7.5Y R6/4	明赤褐色 2.5Y R5/6	—	良	
4	深鉢	胴部	—	横位隆帯 縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	黒色 7.5Y R2/1	灰褐色 7.5Y R4/2	—	良	
5	深鉢	胴部	—	横位結節状隆線 縄文	ヨコナテ	白色粒子	にぶい褐色 7.5Y R5/4	にぶい褐色 7.5Y R6/3	—	良	
6	深鉢	胴部	—	円弧状沈線 縦位平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい赤褐色 5Y R5/4	にぶい褐色 5Y R6/3	—	良	
7	深鉢	胴部	—	刻みのある環状突起	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	赤褐色 5Y R4/6	暗赤褐色 2.5Y R3/2	—	良	
8	浅鉢	口縁部	—	無文	ヨコミガキ	白色粒子 黒雲母 白色磁土	明赤褐色 2.5Y R5/6	にぶい赤褐色 2.5Y R4/4	—	普	
9	深鉢	胴部	—	縦位平行沈線 刺突	ヨコナテ	金小 雲母 磁石	にぶい黄褐色 10Y R7/3	にぶい赤褐色 2.5Y R5/4	—	良	
10	深鉢	胴部	—	縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	灰褐色 7.5Y R4/2	にぶい赤褐色 5Y R4/3	—	普	
11	深鉢	胴部	—	曲隆帯 沈線 刺突	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい黄褐色 10Y R6/4	黒褐色 10Y R3/1	—	良	
12	深鉢	口縁部	—	隆帯による区画文 平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい赤褐色 5Y R4/3	にぶい赤褐色 5Y R5/3	—	普	
13	深鉢	胴部	—	押圧が施された隆帯による 区画文 縦位沈線	ヨコミガキ	金雲母	赤褐色 2.5Y R4/6	にぶい赤褐色 2.5Y R5/4	—	良	
14	深鉢	胴部	—	斜行平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	明赤褐色 5Y R5/8	明赤褐色 2.5Y R5/6	—	良	
15	深鉢	胴部	—	横位隆帯 横位、縦位平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 金雲母	褐色 5Y R6/6	明赤褐色 2.5Y R5/6	—	良	
16	深鉢	口縁部	—	刻みのある曲隆帯 平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	極暗赤褐色 5Y R2/4	黒褐色 7.5Y R2/2	—	良	
17	深鉢	胴部	—	刻みのある隆帯 平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 7.5Y R5/3	にぶい赤褐色 2.5Y R4/3	—	良	
18	深鉢	胴部	—	縦位沈線 縄文	ヨコナテ	白雲母 金小 磁石	褐灰色 7.5Y R4/1	暗赤褐色 5Y R3/6	—	良	

第5号住居址 (第17図)

1	深鉢	胴部	—	刻みのある隆帯 楕円文	ヨコナテ	白色粒子 金小	褐灰色 10Y R4/1	にぶい褐色 7.5Y R6/3	—	良	
2	深鉢	口縁部	—	渦巻状隆帯	ヨコナテ	白色粒子 金雲母	にぶい赤褐色 5Y R4/4	褐色 5Y R6/6	—	普	
3	深鉢	口縁部	—	横位隆帯 沈線	ヨコナテ	金小 雲母 磁石	黒褐色 7.5Y R2/2	にぶい赤褐色 5Y R5/4	—	良	

標記番号	器種	部位	法量	文 様	調 整 (内面)	色 調			焼成	備考
						内 面	外 面	調		
4	浅鉢	口縁部	(21.6)	横位隆帯	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	赤褐色 2.5Y R4/6	黒褐色 5Y R4/1	普	
5	深鉢	胴部	—	横位、円弧状隆帯 横位、縦位平行沈線 二又文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	にぶい褐色 5Y R6/4	褐色 7.5Y R6/6	普	
6	深鉢	胴部	—	縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	灰褐色 5Y R4/2	にぶい赤褐色 2.5Y R5/4	良	
7	深鉢	胴部	—	斜行平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	にぶい赤褐色 5Y R5/4	にぶい赤褐色 2.5Y R5/4	普	
8	深鉢	胴部	—	三又文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	にぶい黄褐色 10Y R6/3	にぶい褐色 7.5Y R7/4	普	
9	深鉢	胴部	—	隆帯 刻み 平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	黒色 5Y R2/1	赤褐色 5Y R4/8	普	
10	深鉢	胴部	—	縄文	不 明	白色粒子 黒雲母 白黒金	灰黄褐色 10Y R6/2	にぶい赤褐色 5Y R5/4	普	
11	深鉢	胴部	—	平行沈線 縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	にぶい黄褐色 10Y R6/4	黒褐色 7.5Y R2/2	良	
12	深鉢	胴部	—	総行隆帯 刻み	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	黒色 N1.5/0	灰褐色 5Y R5/2	良	

第1号ピット群 (第18図)

1	深鉢	口縁部	—	沈線による区画文 縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	にぶい褐色 7.5Y R5/3	黒褐色 7.5Y R3/1	良	
2	浅鉢	口縁部	—	刻みのある隆帯	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	にぶい赤褐色 2.5Y R4/3	明赤褐色 2.5Y R5/6	良	

遺 構 外 (第23・24図)

9	深鉢	胴部	—	垂下する隆帯 横位平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	暗赤褐色 5Y R3/6	赤褐色 2.5Y R4/6	良	中期 後葉
10	深鉢	口縁部 胴部	—	扇状突起 刻みのある隆帯 総行隆帯	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	灰黄褐色 10Y R4/2	黒褐色 10Y R3/2	良	中期 後葉
11	深鉢	口縁部	—	装飾把手 隆帯、沈線による区画文 平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	浅褐色 2.5Y 7/4	にぶい黄褐色 10Y R6/4	普	中期 後葉
12	深鉢	胴部	—	刻みのある隆帯による区画文 平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	明赤褐色 5Y R5/6	にぶい赤褐色 5Y R4/4	普	中期 中葉
13	深鉢	胴部	—	隆帯、沈線による区画文 縄文、刻み 斜行平行沈線	ナ テ	白色粒子 黒雲母 白黒金	黒褐色 5Y R2/1	赤褐色 5Y R4/6	良	中期 後葉
14	深鉢	口縁部 胴部	—	隆帯、沈線による区画文 斜位沈線	ヨコミガキ	白色粒子 黒雲母 白黒金	にぶい赤褐色 5Y R4/4	褐色 7.5Y R6/6	良	中期 後葉
15	深鉢	胴部	—	隆帯による区画 線杉状沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	にぶい黄褐色 10Y R6/4	褐色 5Y R6/6	良	中期 後葉
16	深鉢	口縁部 胴部	—	環状突起 総行隆帯	ヨコミガキ	白色粒子 黒雲母 白黒金	暗褐色 7.5Y R3/4	にぶい赤褐色 2.5Y R4/4	良	中期 中葉
17	深鉢	胴部	—	刻みのある隆帯 扇状隆帯 横位、縦位の平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	にぶい褐色 7.5Y R5/4	赤褐色 5Y R4/6	普	中期 後葉
18	深鉢	胴部	—	総行隆帯 縦位の平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母 白黒金	褐色 7.5Y R6/8	褐色 7.5Y R6/6	普	中期 後葉

博覧 番号	器種	部位	法量	文 様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		焼 成	備考
							内 面	外 面		
19	深鉢	口縁部	---	横位の稜状隆帯 縄文	ヨコナテ	白色粒子 金雲母	褐色 10Y R4/4	灰褐色 7.5Y R4/2	昔	中期 後葉
20	深鉢	口縁部	---	環状突起	ヨコナテ	白色粒子 金雲母	明赤褐色 2.5Y R5/6	にぶい赤褐色 2.5Y R4/4	良	中期
21	深鉢	胴部	---	渦巻き状隆帯	ヨコナテ	白色粒子 金雲母	にぶい褐色 7.5Y R5/4	明褐色 7.5Y R5/6	昔	中期 後葉
22	深鉢	胴部	---	渦巻き状隆帯 横位縞斜状沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 7.5Y R5/4	明褐色 7.5Y R5/6	良	中期 後葉
23	深鉢	胴部 /底部	---	斜みのある隆帯 沈線による区画内に縦状沈線 刺突	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 10Y R5/4	にぶい褐色 10Y R6/4	昔	中期 中葉
24	浅鉢	口縁部	---	縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	褐色 5Y R6/6	にぶい褐色 7.5Y R6/4	昔	中期 後葉
25	深鉢	胴部	---	隆帯と沈線による区画文 縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい黄褐色 10Y R6/3	にぶい褐色 7.5Y R5/4	昔	中期 後葉
26	深鉢	胴部	---	渦巻き状隆帯 垂糸文 沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 7.5Y R5/4	にぶい赤褐色 5Y R5/3	良	中期 後葉
27	深鉢	胴部	---	沈線による区画文 縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 7.5Y R5/3	にぶい赤褐色 5Y R5/3	昔	中期 後葉
28	深鉢	胴部	---	縦位の平行沈線 垂下する波状沈線	ヨコミガキ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 7.5Y R6/3	にぶい黄褐色 10Y R6/3	良	中期 後葉
29	深鉢	胴部	---	円弧状、縦位平行沈線 斜行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	灰黄褐色 10Y R4/2	にぶい赤褐色 5Y R4/3	良	中期 後葉
30	深鉢	胴部	---	地文の斜行沈線に交叉する かたまりで粘土粒を添付	ヨコナテ	白色粒子 金雲母	褐色 7.5Y R4/4	にぶい褐色 7.5Y R5/4	昔	中期 後葉
31	深鉢	胴部	---	斜みのある隆帯 円弧状、斜行沈線	ヨコナテ	白色粒子 金雲母	にぶい赤褐色 5Y R5/4	暗赤褐色 5Y R4/3	昔	中期 中葉
32	深鉢	口縁部	---	曲隆帯 斜状沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい赤褐色 5Y R4/4	にぶい赤褐色 5Y R5/4	良	中期 後葉
33	深鉢	胴部	---	円弧状沈線の連続文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 7.5Y R5/4	赤褐色 2.5Y R4/6	良	中期 後葉
34	深鉢	胴部	---	隆帯による区画内に縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい黄褐色 10Y R6/4	褐色 7.5Y R6/6	良	中期 後葉
35	深鉢	胴部	---	垂糸文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	灰青褐色 10Y R5/2	にぶい褐色 7.5Y R6/4	良	前期 前半
36	深鉢	胴部	---	縦状沈線を施文した後、手 載した管状の工具による刺 突	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	灰青褐色 10Y R5/2	赤褐色 5Y R4/8	良	中期 中葉
37	深鉢	胴部	---	縄文 沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 7.5Y R5/4	赤褐色 5Y R4/8	良	後期 前半
38	深鉢	口縁部	---	連続押圧が施された隆帯	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい黄褐色 10Y R7/3	オリーブ黒色 5G Y2/1	昔	後期 前半
39	深鉢	口縁部	---	横位沈線 隆帯 刺突	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 7.5Y R6/4	にぶい褐色 7.5Y R5/4	良	後期 前半
40	深鉢	口縁部	---	平行沈線	不 明	白色粒子 黒雲母	不明	にぶい赤褐色 5Y R5/4	良	中期
41	深鉢	胴部	---	横位平行沈線 斜状沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい黄褐色 10Y R5/4	褐色 5Y R6/8	昔	中期 後葉
42	深鉢	胴部	---	連続押圧が施された隆帯 縦位平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 7.5Y R5/3	褐色 5Y R6/6	良	中期 後葉

検出番号	器種	部位	法量	文 様	調 性 (内面)	胎 土	色 調		焼成	備考
							内 面	外 面		
43	深鉢	胴部	---	隆帯 斜行平行沈線	ヨコナテ	白雲母	灰褐色 7.5Y R4/2	褐色 5Y R6/6	昔	中期 後葉
44	深鉢	胴部	---	連続押圧が施された隆帯 沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	黒褐色 2.5Y 3/1	灰褐色 7.5Y R4/2	良	中期
45	深鉢	胴部	---	縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	黒褐色 7.5Y R3/1	褐色 7.5Y R4/4	昔	前期 前半
46	深鉢	胴部	---	刻みのある隆帯 縄文	ヨコナテ	白色粒子	にぶい褐色 7.5Y R6/4	にぶい赤褐色 5Y R5/4	良	中期 後葉
47	深鉢	胴部	---	縦位沈線 連続刻み文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	赤褐色 5Y R4/6	黒色 10Y 2/1	良	中期 後葉
48	深鉢	胴部	---	刻みのある隆帯 沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい赤褐色 5Y R5/4	黒褐色 10Y R3/1	良	中期
49	深鉢	口縁部	---	隆帯、沈線による区画文 縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 5Y R6/4	にぶい黄褐色 10Y R5/3	昔	中期 後葉
50	深鉢	胴部	---	隆帯による区画文 縄文	ヨコナテ	白色粒子	浅黄褐色 10Y R8/4	にぶい黄褐色 10Y R7/4	良	中期 後葉
51	深鉢	口縁部	---	連続刺突文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	暗赤褐色 5Y R3/6	にぶい褐色 7.5Y R5/4	昔	中期
52	深鉢	口縁部	---	口縁部に刻み 刺突文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい赤褐色 2.5Y R5/4	にぶい赤褐色 5Y R5/4	良	中期
53	深鉢	胴部	---	縦位平行沈線	ヨコナテ	白色粒子	にぶい褐色 7.5Y R6/4	明赤褐色 5Y R5/6	昔	中期 後葉
54	深鉢	胴部	---	波状沈線 平行沈線 刺突文	ヨコナテ	白色粒子	黒色 10Y R1.7/1	黒褐色 7.5Y R3/2	良	中期 後葉
55	深鉢	口縁部	---	隆帯、沈線による区画文 縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	明褐色 5Y R5/6	褐色 7.5Y R6/6	良	中期 後葉
56	深鉢	胴部	---	刻みのある隆帯、沈線による 区画文 縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	赤褐色 5Y R4/8	褐色 7.5Y R6/6	良	後期 前半
57	深鉢	口縁部	---	沈線による区画文 斜行平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	明赤褐色 5Y R5/6	赤褐色 2.5Y R4/6	良	中期 後葉
58	深鉢	胴部	---	隆帯に竹管文 斜行平行沈線 刺突文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	黒色 2.5Y 2/1	にぶい赤褐色 5Y R5/4	昔	中期 中葉
59	深鉢	胴部	---	刻みのある隆帯 平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	赤褐色 5Y R4/6	にぶい赤褐色 5Y R5/4	良	中期
60	深鉢	胴部	---	尖った棒状工具による刺突 沈線による区画文 縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	赤褐色 5Y R4/6	にぶい褐色 7.5Y R5/4	良	中期 後葉
61	深鉢	口縁部	---	隆帯 斜行平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	赤褐色 5Y R4/8	明赤褐色 2.5Y R5/6	昔	中期 中葉
62	深鉢 / 底部	胴部	---	波状沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 7.5Y R5/4	明赤褐色 5Y R5/8	良	中期 後葉
63	深鉢	胴部	---	隆帯による区画 縄文	ヨコナテ	白色粒子 白雲母	黒褐色 10Y R3/1	暗赤褐色 5Y R3/6	昔	中期 後葉
64	深鉢	胴部	---	平行沈線 縄文	ヨコナテ	黒雲母 金雲母	にぶい赤褐色 5Y R5/4	にぶい褐色 7.5Y R6/4	良	中期 後葉
65	深鉢	胴部	---	蛇行隆帯 平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	灰褐色 7.5Y R4/2	にぶい赤褐色 5Y R5/3	良	中期 後葉
66	深鉢	口縁部 / 胴部	---	沈線による区画 刺突のある隆帯 斜行平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲母	にぶい黄褐色 10Y R7/4	淡黄色 2.5Y 8/4	昔	中期 中葉

標價番号	器種	部位	法景	文様	調整 (内面)	色調			焼成	備考
						貼上	内面	外面		
67	浅鉢	口縁部	--	刺青文	ヨコミガキ	白色粒子 黒雲母	黒褐色 10Y R2/3	明赤褐色 5Y R5/6	昔	中期 中葉
68	深鉢	胴部	--	連続印丘が施された隆帯 縄文	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母	褐色 5Y R4/1	暗赤褐色 5Y R3/3	昔	中期 後葉
69	深鉢	胴部	--	縦位平行沈線 縄文	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母	褐色 7.5Y R4/1	にぶい赤褐色 5Y R5/3	良	中期 後葉
70	深鉢	胴部	--	縄文	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 7.5Y R5/4	明赤褐色 5Y R5/6	昔	中期 後葉
71	深鉢	胴部	--	刻みのある隆帯 隆帯による区画文 刺青	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母	黒褐色 7.5Y R3/1	極暗赤褐色 2.5Y R2/3	昔	中期
72	深鉢	口縁部	--	厚状突起 沈線 刻み	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母	青黒色 5B2/1	褐色 7.5Y R6/6	昔	中期 中葉
73	深鉢	胴部	--	平行する隆帯 縄文	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母 白雲母	赤褐色 5Y R4/8	にぶい黄褐色 10Y R4/3	良	中期 後葉
74	深鉢	口縁部	--	縄文	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母	にぶい黄褐色 10Y R7/4	にぶい黄褐色 10Y R6/4	良	前期 前半
75	深鉢	口縁部	--	沈線 縄文	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母	黒褐色 10Y R3/1	にぶい褐色 5Y R6/4	昔	中期
76	深鉢	口縁部	--	渦巻き状隆帯	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母	にぶい赤褐色 5Y R5/4	にぶい赤褐色 5Y R4/3	良	中期 後葉
77	深鉢	口縁部	--	隆帯、沈線による区画文 縄文	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母	暗赤褐色 5Y R3/2	極暗赤褐色 5Y R2/3	良	中期 後葉
78	深鉢	口縁部	--	横位、渦巻き状隆帯	ヨコナデ	金雲母	黒褐色 7.5Y R2/2	灰褐色 7.5Y R4/2	良	中期 後葉
79	深鉢	胴部	--	刻みのある隆帯 沈線	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母 金雲母	にぶい褐色 7.5Y R6/4	極暗赤褐色 5Y R2/3	良	中期 中葉
80	深鉢	胴部	--	刻みのある隆帯 斜行平行沈線	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母	にぶい黄褐色 10Y R4/3	赤褐色 5Y R4/6	昔	中期 中葉
81	深鉢	口縁部	--	渦巻き状隆帯	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母 白雲母	明赤褐色 5Y R5/6	黒褐色 5Y R5/1	昔	中期 後葉
82	深鉢	胴部	--	渦巻き状沈線	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母	明赤褐色 5Y R5/6	黒褐色 2.5Y 3/1	良	中期
83	深鉢	胴部	--	渦巻き状隆帯が施された突起 刻みのある隆帯 波状沈線	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母	褐色 7.5Y R4/3	極暗褐色 7.5Y R2/3	良	中期 中葉
84	深鉢	胴部	--	平行、綾杉状沈線	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母 金雲母	明赤褐色 5Y R5/6	褐色 7.5Y R6/6	良	中期 後葉
85	深鉢	口縁部	--	刻みのある隆帯による区画文 「く」の字状連続沈線	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母 白雲母	黒褐色 7.5Y R3/1	暗赤褐色 5Y R3/4	良	中期 中葉
86	深鉢	胴部	--	横位、縦位の平行沈線	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母	にぶい赤褐色 5Y R4/4	黒褐色 5Y R3/1	良	中期 後葉
87	深鉢	胴部	--	沈線が施された隆帯 蛇行沈線	ヨコナデ	白色粒子 黒雲母	にぶい赤褐色 5Y R4/3	褐色 7.5Y R4/1	良	中期 後葉
88	深鉢	胴部	--	渦巻き状沈線	ヨコナデ	白色粒子	黒色 7.5Y R2/1	褐色 5Y R6/6	良	中期 後葉
89	深鉢	胴部	--	刻みのある隆帯 斜行平行沈線 縄文	ヨコナデ	白色粒子 白雲母	灰黄褐色 10Y R4/2	灰黄褐色 10Y R5/2	昔	中期 後葉
90	深鉢	胴部	--	隆帯による区画文 縦位平行沈線 縄文	ヨコナデ	黒雲母	にぶい黄褐色 10Y R7/4	褐色 5Y R6/6	良	中期 後葉

標頭 番号	器種	部位	法京	文 様	調整 (内面)	胎 上 内 面		調 外 面	焼 成	備考
						色	色			
91	深鉢	口縁部	--	曲隆帯 沈線による区画文 縦位平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲 石	明赤褐色 5Y R5/6	褐色 5Y R6/6	良	中期 後葉
92	深鉢	胴部	--	椋杉状沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲 母	黒色 2.5Y R1.7/1	赤褐色 2.5Y R4/6	良	中期 後葉
93	深鉢	口縁部	--	刻みのある隆帯 沈線による区画文 刷突	ヨコナテ	白色粒子	黒褐色 10Y R3/1	黒褐色 10Y R2/2	良	中期 中葉
94	深鉢	胴部	--	刻みのある隆帯 縄文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲 金雲 母	にぶい赤褐色 5Y R5/4	黒褐色 10Y R3/1	普	中期 中葉
95	深鉢	胴部	--	隆帯、沈線による区画文 刷突	ヨコナテ	白色粒子 金雲 母	褐色 7.5Y R4/3	黒色 10Y R2/1	良	中期 中葉
96	深鉢	胴部	--	横位、波状沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲 母	灰褐色 7.5Y R4/2	黒褐色 5Y R2/1	普	中期
97	深鉢	口縁部	--	刻みのある渦巻き状隆帯	ヨコナテ	白色粒子 黒雲 母	黒褐色 7.5Y R3/1	にぶい赤褐色 5Y R5/4	良	中期
98	深鉢	胴部	--	燃糸文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲 金雲 母	暗赤褐色 5Y R3/6	黒褐色 7.5Y R3/1	良	中期
99	深鉢	胴部	--	刻みのある隆帯による区画文 縦位沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲 母	黒褐色 10Y R3/1	黒色 10Y R1.7/1	良	中期 中葉
100	深鉢	口縁部	--	曲隆帯 刻み	ヨコナテ	白色粒子	黒褐色 10Y R3/1	にぶい赤褐色 5Y R5/4	良	中期 後葉
101	深鉢	胴部	--	隆帯 燃糸文	ヨコナテ	白色粒子 黒雲 母	灰褐色 5Y R4/2	にぶい赤褐色 5Y R4/3	良	中期 中葉
102	深鉢	口縁部	--	縦位、斜行平行沈線	ヨコナテ	白色粒子 黒雲 金雲 母	にぶい赤褐色 5Y R5/4	にぶい赤褐色 5Y R4/3	普	中期 後葉
103	深鉢	口縁部	--	刻みのある曲隆帯	ヨコミガキ	白色粒子 黒雲 母	にぶい褐色 7.5Y R5/4	灰褐色 7.5Y R4/2	良	中期 中葉

圖 版



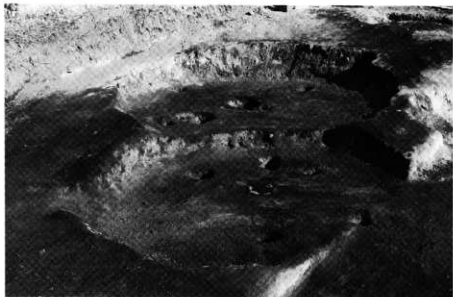
第1号住居址



第2号住居址



第3号住居址



第4号(下)第5号(上)住居址



第1号ピット群



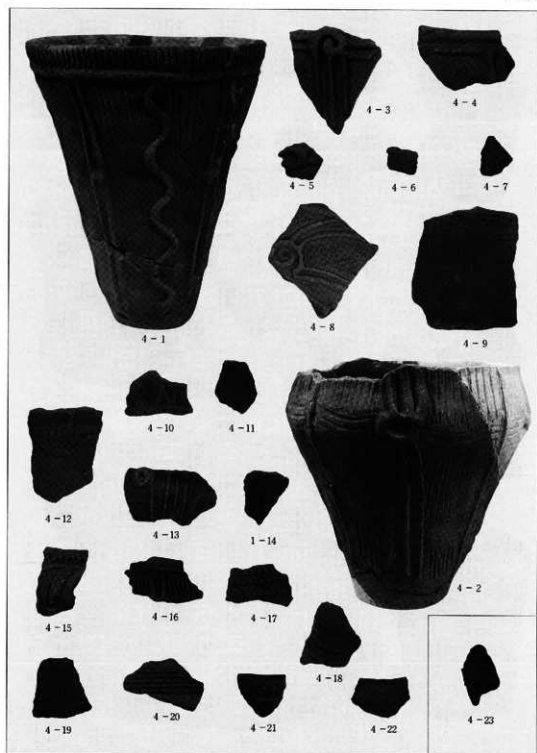
第1号土坑



第2号土坑



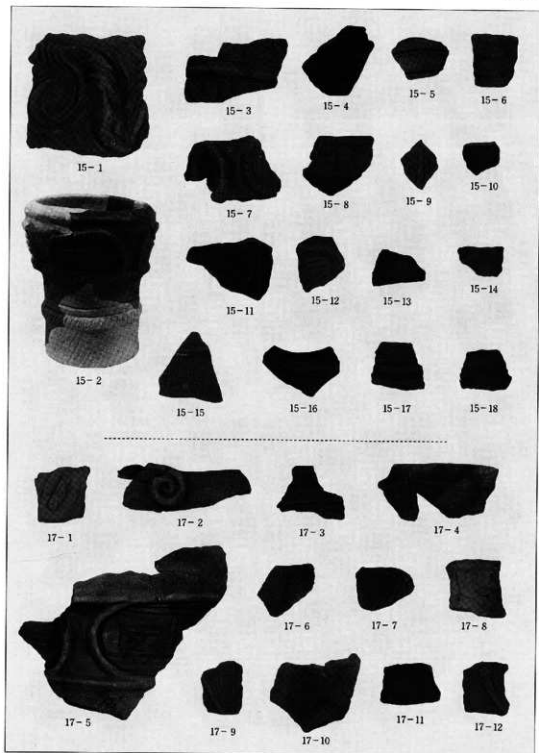
第3号土坑



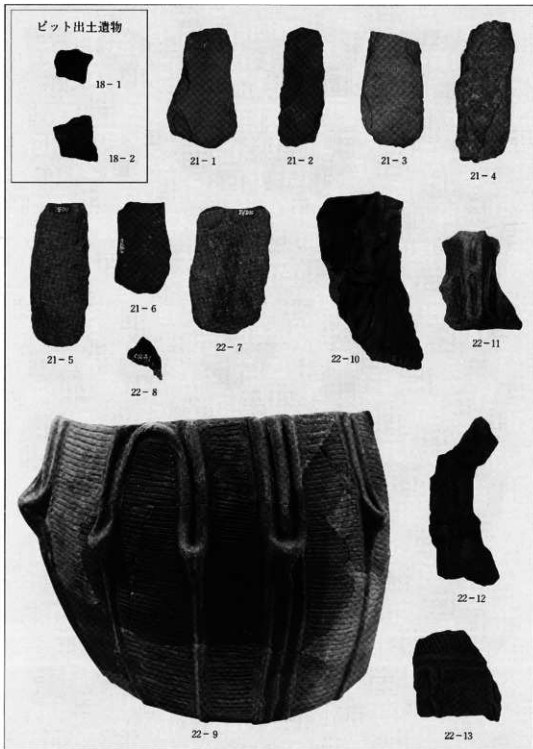
第 1 号住居址出土遺物



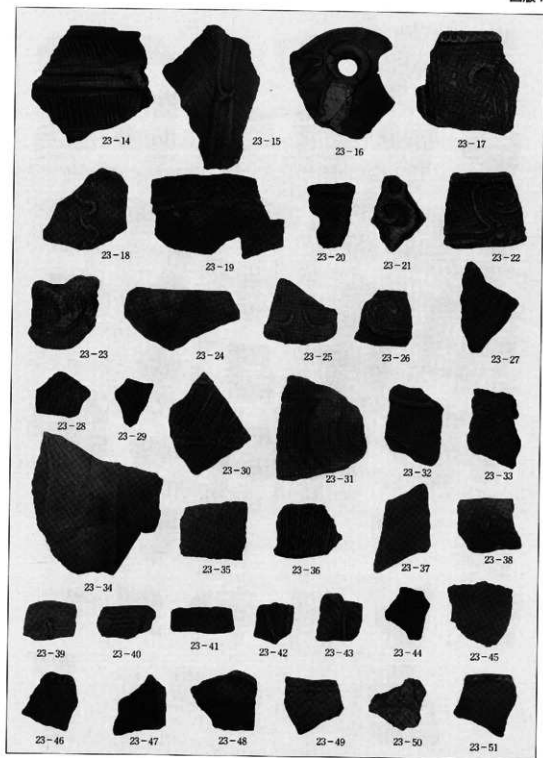
第 2 · 3 号住居址出土遺物



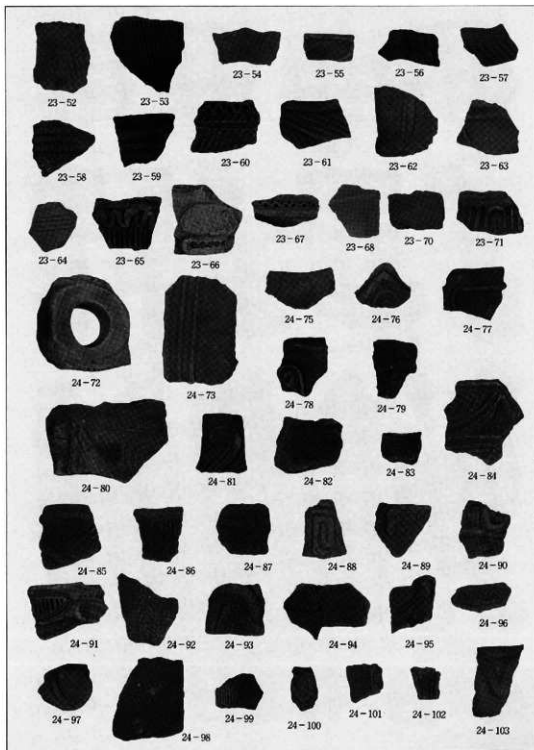
第4·5号住居址出土遗物



遺構外出土遺物



遺構外出土遺物



遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな 書名	ごうど いせき 郷土遺跡 (第二次)							
副書名	長野県小諸市郷土遺跡発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第25集							
編著者名	星野保彦							
編集機関	小諸市教育委員会							
所在地	〒384 長野県小諸市相生町三丁目3番3号 ☎ 0267(22)1700							
発行年月日	1996年 平成8年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査 期間	調査 面積	調査原因
ごうどいせき 郷土遺跡	こもろし 小諸市 こ 甲 あづなごうど 字中郷土	20208	84	36° 19' 54"	138° 26' 52"	平成 7年 11月13 日～ 12月15 日	約 1335㎡	上信越自動車道 建設に伴う市道 改良事業のため の事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
郷土遺跡	集落跡	縄文時代 中期後半	竪穴住居址 5棟 ピット群 1 土坑 3基		縄文時代前期 から後期に かけての上器 打製石斧 石鏃		縄文時代の集落の一部	

小諸市文化財報告書第25集

郷土遺跡 (第二次)

緊急発掘調査報告書

発行日 1996年3月31日
 編集者 小諸市教育委員会
 発行者 小 諸 市
 小諸市教育委員会
 印刷 (株)アオヤギ印刷

